

一 次の文章を読んで間に答えなさい。ただし、出題の都合上、一部改変しているところがあります。

高円寺にある「小杉湯」はJR中央・総武線の高円寺駅から歩いて五分のところにある。創業は一九三三（昭和八）年。第二次世界大戦末期の空襲を経て焼けずに残った古い建物を修繕しながら、もう九十年営業を続けている。いまの経営者は三代目の平松佑介だ。平松は私と同世代の一九八〇年生まれ。住宅メーカー勤務からITベンチャーの創業を経て、先代の引退に際し、家業を継ぐかたちで小杉湯の経営を手がけるようになったという。私は、媒体の主筆としてたびたび平松との対話をおこなっている。そこで、興味深いことを彼が述べていた。平松は「銭湯は『ありのままの自分』と『ありのままの他者』を受け入れられる空間になっている」という。

銭湯という場所は、自己を「肯定」するのではなく「受容」する場所になっているのではないだろうか。銭湯には「よく知らないけど、身近な他者」が、「ありのままの姿」で存在している。その顔や体型は、千差万別です。こうした多様性から離れて、「一般的な美しさ」や「理想の体型」ばかりを情報として摂取しているだけでは、その基準でしか自分を見ることができず、理想からかけ離れている場合はどうしても自己否定せざるを得ません。でも、銭湯に来ると、いろんな世代の、いろんな体型を持つ「ありのままの身近な他者」がそこにいるわけです。だからこそ、「自分もこのままでいいのかも」と感じられ、ホッとできるのではないかと思っています。

この小杉湯は高円寺の古きよき中央線沿線文化を守る共同体の象徴として紹介されることが多い。しかし、平松曰く、A その実態はこうしたイメージとは少し離れたものだという。たしかに、小杉湯では顔なじみのご近所同士が親しく会話を交わす、という場面に出くわすこともある。しかしここで*の*いわゆる「地元」の「常連」同士のコミュニケーションの大半は、いつも見る顔を確認してなんとなく安心する、程度のものであるという。目礼や、かたんな挨拶すらないケースがほとんどらしい。

この報告を聞いて、① ラクタンする人もいるかもしれない。この程度の「絆」では社会的なセーフティーネットとして機能しない、と。これでは肯定的な依存先としての「家」にはならない、と。たしかにそうかもしれない。

しかし醤油が切れたらご近所から貸してもらえらることよりも、安価にコンビニエンスストアや\*1 ECサイトで手に入ることのほうが、とくに弱者にとっては、（再分配さえ機能していれば）自由と平等をもたらす。そしてこのグループよりは\*2 コレクティブに近い場所に、\*3 プラットフォームの作り出した相互評価のゲームとは異なる「ばらばらのままつながる」、初期インターネット的なコミュニケーションの可能性がある。そこには「家」の可能性はないが「庭」の可能性があるのではないか。

このとき銭湯に集う人びとは自分の物語を語らない。B 誤解しないでほしいが、彼ら／彼女らはすべての人間がそうであるように自己幻想を抱き、自分の物語を生成している。しかしそれを他者に語ることをしない。そして語ることなく、同じ場所を共有している。つまり彼らは承認を交換する相互評価のゲームをプレイすることなく共生しているのだ。言い換えれば、ここに集う人びとが生きているのは事物としてのストーリーであり、人間間の承認の交換である\*4 ナラティブではない。このような場所においては、ナラティブが機能していない。しかし、このような場所が存在することは、その② イリヨクは弱いかもしれないが確実に人間を救っている。少なくとも「楽」にしている。ナラティブの快楽に弱い（説教が好き）人はこう述べるかもしれない。それだけでは、人間は生きていけないのだ。全人格的な承認を、長期にわたって供給する「家族」的な存在が必要なのだ、かつての下町のような人情味あふれる共同体こそが必要なのだ、と。

しかし私はそうは考えない。共同体は弱者を包摂するかもしれないが救済はしない。劣位の、③ シユウダツの対象としてそこにとどめ置く。必要なのはむしろ銭湯のような、生活の一部となり、そしてそこにいる誰からも程よく「気にされない」場所なのではないか。「何者でもない」まま、すべての人が尊重されるような、しかし「二十一世紀の〈グレート・ゲーム〉」に陥らない場所なのではないか。意識の高い政治経済の議論どころか会話すらするわけでもなく、ただ裸で身体を洗って、コーヒー牛乳を飲んでいただけなのだけれど、そこに集う人びとが相互に前提として尊重しあっている、いや、「排除しない」。そんな場所こそが、いまの社会には必要なのではないだろうか。

小杉湯の名物は「ミルク風呂」だ。温度はややぬるめの摂氏四一度。入りやすい温度に設定することで、「ゆるまる」効果を提供することの「ミルク風呂」はサウナと水風呂を往復し身体に④ フカをかけることで、「ととのう」こととは⑤ タイキヨクにあるものだ。四一度のお湯に浸かりつづけることで、C 満たされるのは「何もしたくないし、ととのいたくもない」欲望なのだ。

今日の相互評価のゲームが支配する情報社会においては、誰もが「何者かになること」、言い換えれば「何かをできるようにすること」を志向している（させられている）。もちろん、障害者がそうではない人と同じように働けるようになること、あるいはこれまでなんらかの差別を受けていた人がさまざまなことにチャレンジできるようにすることなど、誰かが「何かをできるようにすること」は、間違いなくすばらしい。しかし私はこうも考える。「何者かにならなければならない」「何かをできるようにしなければならない」といった\*5 オブセッションから解放されることも、同じくらい大事なことなのだ。小杉湯の反時代的な取り組みに私が注目するのは、結果的にもかもしれないがそういった「何者かになること」「何かをできるようにすること」の重圧から人びとを解放する役目を担っているように思えるからだ。銭湯のピークは夕方だという。そこは昼間に働く時間と夜の働かない時間の結節点にある。その中間の時間が「夕方」なのだ。そして私は思う。おそらく今私たちには「夕方」が足りていない。現代を生きる人びとはいつの間にか日々の生活のなかに「昼」と「夜」以外の時間をもてなくなっている。昼間は仕事を通じた社会的自己実現のゲームをプレイし、夜は家族とか恋人といった他者と向きあうゲームに興じるか、SNSを通じて昼のゲームの延長戦をしている。比喩的に言えば、かたや新しいタイプのビジネスマンは意識の高い\*7 コワーキングスペースで「\*8 朝活」することばかり考えていて、誰も夕方のことを考えていない。しかし、私はこの夕方こそがいま、必要な時間だと考える。それは一日のなかばをすぎた時間だが、もう何もできないとあきらめるにはまだ早い時間だ。この時間に、ただ弛緩して、「ゆるまって」、D ゲームから完全に離脱することこそが、もっとも必要なのではないか。

（宇野常寛『庭の話』）

\*1 ECサイト——インターネット上で商品やサービスを販売するためのサイト。

\*2 コレクティブ——個々の主体性を尊重しつつ、全体の動きに従わずに協力する状態。

\*3 プラットフォーム——複数の人間が相互接続できる環境。

\*4 ナラティブ——物語・話術。

- \*5 オブセッション——強迫観念・妄想。
- \*6 ゴールデン街——東京都新宿区にある繁華街。
- \*7 コワーキングスペース——企業や個人が集まり、空間や設備を共有しながら仕事をする場所。
- \*8 朝活——朝の時間を活用して行う活動。

問一 〓線部①～⑤のカタカナを漢字になおしなさい。

問二 波線部A「その実態はこうしたイメージとは少し離れたものだ」とあるが、「小杉湯」にはどのような実態があるのか、具体的に説明しなさい。

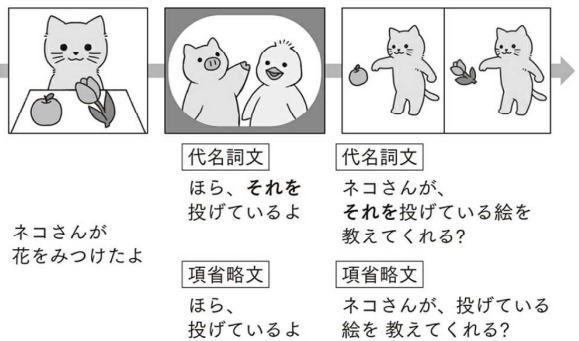
問三 波線部B「誤解しないでほしいが」とあるが、筆者が想定しているのはどのような誤解か、説明しなさい。

問四 波線部C「満たされるのは『何もしたくないし、とどのいたくもない』欲望なのだ」とあるが、このような「欲望」が満たされる必要があるのはなぜか、その理由を説明しなさい。

問五 波線部D「ゲームから完全に離脱することこそが、もつとも必要なのではないか」とあるが、なぜ「ゲームから完全に離脱すること」が必要なのか。「承認」という語を必ず用いて説明しなさい。

二 次の文章を読んで問に答えなさい。ただし、出題の都合上、一部改変しているところがあります。

Ⅰ 赤ちゃんの言語発達を考える際、文法的な側面の発達は重要な視点の一つです。子どもが文を理解する際には、項構造知識も重要な役割を果たします。世界の言語には、主語や目的語の項を省略できる言語と、省略できない言語があります。日本語では、「(電車が)来た!」「(ごはんを)食べた?」のように、共有認識がある場合には代名詞を用いるのが一般的です。たとえば、日本語話者が「取って」と項を省略して話すのに対し、英語話者は「それを取って」と代名詞を使います。2～3歳児と親の会話を分析した研究では、日本の親子は項を省略した発話を多用し、カナダの英語学習児の親子は代名詞を多用する傾向があることがわかりました。この違いは、子どもの文理解にも影響を及ぼしている可能性があります。私たちは、日本の2歳児と3歳児を対象に、項省略文と代名詞文の理解を調べました。実験では、映像を用いて子どもの文理解を検証しました(図1)。代名詞文条件では、ネコが花を見つける映像を提示し、その後、ブタとトリが「ほら、それを投じているよ」と説明する場面を見せました。続くテストでは、「ネコさんが、それを投じている絵を教えてください」という代名詞を含む音声文とともに、ネコが花を投じている映像と、リンゴを投じている映像を提示し、子どもの視線をアイトラッカーで測定しました。一方、項省略文条件では、同様の映像を提示しながら、「ほら、投じているよ」「ネコさんが、投じている絵を教えてください」という目的語が省略された音声文を使用しました。視線データを分析した結果、2歳児は代名詞文では正解を選べませんでした。項省略文では正解の映像を長く注視していました。これは、2歳児にとって、「それを投じて」と代名詞を含んだ文で言われるよりも、「投じて」と項を省略して言われた方が理解しやすいことを意味しています。一方、3歳児は代名詞文と項省略文のいずれにおいても正解の映像を注視しており、どちらも、理解していることが示されました。この結果は、私にとって意外なものでした。2歳児は目的語項が省略されると理解できると、「それを」と代名詞が付くと難しくなるのは興味深い現象です。日本語では項省略が許される一方、「それを」と代名詞を使用するのはもちろん正しい文法です。それでも代名詞文の理解が難しい背景には、日常的に代名詞文を聞く機会が少ないことが影響している可能性があります。なお、カナダの英語学習児に同様の実験を行ったところ、代名詞文を理解できる一方で、項省略文の理解が難しいという結果が得られました。こうした文化的な違いは、親の発話スタイルが子どもの文理解に大きく影響している可能性を①シサしています。



Ⅱ 言語発達を考える際、日本語を学ぶ子どもと英語を学ぶ子どもの違いを比較する研究も重要です。なぜなら、両言語の共通点や②ソウイ点を知らず、子どもの語彙学習の仕組みを明らかにするヒントが得られるからです。これまで注目されてきたのは、A日本語を学ぶ子ども(日本語児)が英語を学ぶ子ども(英語児)に比べて発話できる語彙数が少ないという点です。私たちが調査したところ、20ヶ月の時点で、日本語児は平均74語を発話できるのに対し、英語児は137語と、ほぼ倍近い語彙を発話しています。では、日本語を学ぶ子どもが、英語を学ぶ子どもより語彙の獲得が遅いのはなぜでしょうか。子どもの言葉の発達には、養育環境や子どもの社会的能力など、さまざまな③ヨウインが影響します。その中でも、親の発話スタイルは重要な役割を果たします。子どもは親からの言葉の積み重ねを通じて語を学ぶため、親の発話スタイルの違いが日本語児と英語児の語彙習得に大きく関わる可能性があります。この関係を調べるために、私たちは20ヶ月の日本語を話す子どもと英語を話す子ども、そしてその子どもを育てる母親、計40組の親子を対象に実験を行いました。実験では、母親に、モニターに映る15種類の短い動画(例・イヌがエサを食べる、ブタが転がる)について子どもに説明してもらいました。これらのやり取りを④ロクガシ、発話内容をすべて書き起こして日英間で比較しました。また、言語発達質問紙を用いて、子どもの発話語彙数を測定しました。分析の結果、日英間で母親の発話スタイルには、以下の3つの顕著な違いがみられました。第一に、赤ちゃん言葉の使用の違いがみられました。日本語児の母親は、「わんわん」「ぱくぱくする」といった赤ちゃん言葉を多く使い、発話の約26%が赤ちゃん言葉でした。一方、英語児の母親は、赤ちゃん言葉の割合がわずか8%にとどまりました。第二に、表現の一貫性の違いです。日本語児の母親は、「イヌや。わんわんいるね。イヌさん、ごはん食べてるよ。ぱくぱくしてるよ。」のように、同じ対象を「イヌ」「わんわん」など赤ちゃん言葉と成人語を併用して言及する一貫性の低い発話が目立ちました。これに対し、英語児の母親は、対象を一貫して単一の語(例・dog)で表現する傾向がありました。第三に、疑問文の使用頻度の違いです。英語児の母親は疑問文を頻繁に用い、動画視聴中に平均21・2回(全発話の21・5%)使用していました。一方、日本語児の母親は平均8・9回(全発話の9・3%)と使用頻度が低いことがわかりました。これらの結果から、日本語児の親は赤ちゃん言葉が多く、一貫性の低い発話をし、疑問文の使用頻度が少ないという特徴が明らかになりま

した。B さらに、日本語児では、母親の発話の一貫性が高いほど子どもの語彙数が多いという関連性が示されました。日本語児の親が一貫性の低い発話をする一方で、子どもの語の定着に影響を与え、語彙獲得が遅れる可能性があります。たとえば、日本の子どもは同じ対象に複数の語で言及されるため、語と対象の対応が曖昧になり、語の定着が遅れるのかもしれませんが。一方、英語児は指示対象に一貫した語を聞くことで、語と対象の対応が明確になり、語の定着が促進されると考えられます。また、英語児の母親が疑問文を多用することで、子どもの応答機会が増え、語彙習得をさらに促している可能性も考えられます。

日本語と英語の親の発話スタイルの違いは、語彙獲得メカニズムの理解に新たな視点を提供します。先行研究によれば、アメリカの母親は子どもの言語能力の発達を促す働きかけに価値を置くのに対し、日本の母親は子どもとの情緒的なコミュニケーションの確立を大切にしていることが報告されています。こうした日本の母親の接し方が、赤ちゃん言葉を多く使用する背景にあるのかもしれませんが。赤ちゃん言葉は柔らかく親しみやすいため、子どもの注意を引き、親子の情緒的なつながりを深める効果があると考えられます。

赤ちゃんが言葉を学んでいく様子には、本心に驚かされます。何も喋れなかった新生児が、言い間違えたり口ごもったりしながらも、あつというまに喋れるようになっていく姿は、まるで人間の成長の⑤「シュルクズ」のようです。人間が言葉という最大のコミュニケーション手段をどのように獲得していくかを解明することは、最新のコミュニケーション技術の開発に役立てられています。赤ちゃん研究はこのように、人類の技術の発展に深く関連するものなのです。

(奥村優子『赤ちゃんは世界をどう学んでいくのか ヒトに備わる驚くべき能力』)

問一 〓線部①～⑤のカタカナを漢字になおしなさい。

問二 本文では、Ⅰ段落とⅡ段落で2つの研究を紹介している。研究内容を端的に示すという観点で、それぞれの研究にタイトルを付けたとき、各空欄にあてはまる語を本文中から五字以内で抜き出しなさい。

Ⅰ：項構造の違いと子どもの( )に関する研究。

Ⅱ：親の発話スタイルの違いと子どもの( )に関する研究。

問三 Ⅰ段落の研究とⅡ段落の研究を踏まえ、共通して言えるのはどうか、説明しなさい。

問四 波線部A「日本語を学ぶ子ども(日本語児)が英語を学ぶ子ども(英語児)に比べて発話できる語彙数が少ない」とあるが、その理由を筆者はどのように考えているか、説明しなさい。

問五 本文によると、親が赤ちゃんに話しかける時、X「赤ちゃん言葉を多く使用すること」とY「赤ちゃん言葉をあまり使用しないこと」には、それぞれにメリットがあるようである。X、Yそれぞれのメリットを答えなさい。

問六 Ⅰ段落の研究結果をより確かにものにするためには、どのような追加検証をすることが望ましいか。Ⅱ段落の研究における波線部Bの内容を参考にし、解答欄の言葉に続けて答えなさい。

日本の2歳児の親が( )。

三 次の文章を読んで間に答えなさい。ただし、出題の都合上、一部改変しているところがあります。

元日いまだ夜ふかきうちに、よろづものを売り買ふ人、\*1えびすをもとめ迎ふる事は、聖徳太子よりさだまれり。さるにより、これを持ちて「\*2若えびす、若えびす」と呼ぶ。①これを望む者うけてよろこぶ。かのえびすの\*3はんぎを刷る者、色々②人のたうとむほどの姿をおこして持ちたりしが、\*4師走のいそがはしきにや取り紛れけん、えびすと思ひて持ちいでけるが、\*5三途川のうばを刷りたるを、Aとりちがへ売りありきぬ。明けがたに\*6うくる者の見付け、「これは\*7いな姿や」と言ふを、売りぬしもみればうばなり。肝をつぶしながら、Bおくれぬ顔して言ふやう、「これこそえびすの\*8おふくろにて、殊更めでたし」と祝ひければ、「\*9げにもげにも、若えびす殿も、おふくろがなうてはいかであらん、福の【 X 】【これなり」とよろこびて、③いただきおさめけるとなん。

(安楽庵策伝『醒睡笑』)

- \*1 えびす——七福神の一つ。「えびすをもとめ」は、えびすの札を買い求める。 \*2 若えびす——「えびす」を売る言葉。
- \*3 はんぎ——版木。絵や文字が彫られた板。 \*4 師走——陰暦十二月の別名。
- \*5 三途川のうば——「三途川」は死者が渡ると信じられている川。「うば」は三途川のほとりで死者の皮をはぐ老婆。
- \*6 うくる者の見付け——買った者が気づき。 \*7 いな姿——奇妙なお姿。 \*8 おふくろ——母親のこと。
- \*9 げにも——いかにも。

問一 傍線部①～③の内容として最もふさわしいものをそれぞれ選び記号で答えなさい。

- ① ア これを買い求める者は、大笑いして喜んだ。 イ これを買い求める者は、人に与えて喜んだ。
- ウ これを買い求める者は、これを手にして喜んだ。 エ これを買い求める者は、これを聞いて喜んだ。
- ② ア 人が尊ぶ姿を想像して持ち歩いていた。

- イ 人が尊ぶ姿の札を刷りあげて持ち歩いていた。
- ウ 人から自分が尊敬されるような札を刷りあげて持ち歩いていた。
- エ 人から自分がうらやましがられるような姿を想像して持ち歩いた。

- ③ ア 大事に寺におさめたという。 イ 大事に懐におさめたという。
- ウ 大事に頭の上のせたという。 エ 大事に売り主に返したという。

問二 波線部A「とりちがへ」た原因になったのはどのようなことか、説明しなさい。

問三 波線部B「おくれぬ顔」とは「平気な顔で」という意味であるが、なぜ売りぬしは平気な顔をしたのか、説明しなさい。

問四 【 X 】【に入る最もふさわしい言葉を一つ選び記号で答えなさい。

- ア お返し。 イ 行くさき。 ウ ありさま。 エ みなもと。